

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:9 (75%) ②:3 (25%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:8 (67%) ②:4 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:6 (50%) ②:6 (50%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:9 (75%) ②:2 (17%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (8%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:3 (25%) ②:8 (67%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:9 (75%) ②:3 (25%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:3 (25%) ②:8 (67%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:4 (33%) ②:7 (58%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:7 (58%) ②:4 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (8%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:8 (67%) ②:4 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 2（17%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 10（83%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 0（0%）
- ④その他： 1（8%）・・・「物理科学教員間ネットワーク（工学部内）」
- 未回答： 1（8%）

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 6（50%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 11（92%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 1（8%）
- ④その他： 1（8%）・・・「物理科学教員間ネットワーク（工学部内）」
- 未回答： 0（0%）

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：9 クラス（順不同）

- [1] 授業内容の定着及び復習の目的で、ほぼ毎回宿題を出し、期限内に提出させた。・・・3 クラス
- [2] 以前からアクティブラーニングを導入しているが、生徒がより能動的に授業に参加するように、講義時間内のグループワークにおけるポイントの成績評価への割合を高くし、且つそのことを授業中に何度も周知した。・・・2 クラス
- [3] 小テストの模範解答を少し詳しくした。板書の文字を大きく書き、指棒を用いて説明を行った。
- [4] 教科書を使用しているが、シラバス通りに行うためには部分的な利用となっていた。今年度はサブテキストを作成し、問題点の解消に努めた。また、他の 1 年生の科目（数学解析 I、物理科学）の内容との連携を図った。
- [5] 学生の理解度に応じ、追加の参考資料を配布するなどした。
- [6] (1)A4 版コンパクトサイズで作成した講義プリント(15 週分)を最初の講義で配布し、予習を促すとともに、毎週実施した補習授業でも「復習 30 分」と「予習 30 分」を行い、学生の能動的学習を促した。
- (2)月曜日 1 コマめに「物理科学授業」、4 コマ目に「補習・復習」を行った結果、参加者は「延べ人数 276 名（参加者の推移は 42-36-25-22-26-21-19-26-10-28-12-9 名、12 回平均 23 名、46%）であり、受講者全員が単位を取得した。
- (3)ウォータルーイン教授のビデオ「月表面では隼の羽とハンマーは同じ速度で落下する」、「バードストライクでピトー管が壊れると、飛行機のエアースピードが測定できない」「土星の惑星に地球外生命が存在する可能性がある」等について、ビデオクリップで説明し、学生の興味が深まるように工夫した。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 11 クラス（順不同）

- [1] 基本的に授業はスライドを用いているが、時として重要な事柄については黒板で合わせて説明をするようにしているが、黒板の使い方をもう少し工夫すべきだと考えている。・・・3 クラス
- [2] 高校時の履修／未履修により受講生の実力に大きく開きがある科目だが、チームベースドラニングの導入により、出

来る学生から出来ない学生への「教え合い」をさせることで、様々な実力の学生にとって「飽きない」授業を出来ている点は評価できる。

一方で、アクティブラーニングの効果・導入理由を受講生に周知できていないため、従来型の講義との違いに戸惑っている学生がいるのは今後改善すべき点である。

・・・2クラス

[3] 本科目では、チーム基盤型学習(TBL)形式のアクティブラーニングを実施している。本年度で3回目となる。6回にわたるチームでの問題回答作業を実施しているが、本年度は、その平均点が10点程度上がった。その結果、個人テストの平均点も最も向上した。

もうしばらく、TBL形式の授業を継続したいと考えている。

[4] 学生の態度を観察し、説明のレベルを変更したことがある。また、サブテキストを作成し学生の学習の補助を行った。

[5] 今年度から数学グループで作成したサブテキストを適宜使用することで、授業方法の改善を図った。

[6] 数学なので、回が進むにつれてついていけない学生がどうしても増えていくが、彼らをどのようにして救っていくかが今後の課題である。彼らを放っておいてしまうと、彼らの目が死んでしまい、大学における学修全体のモチベーションの低下につながってしまう。ひいては、私の授業だけの問題ではなくなる。

[7] 講義中に配布した教材に誤植や分かりづらい点があったので、それらを改善していきたい。

[8] 授業改善アンケートでは「ほとんどが高校物理と同じ内容で優しすぎた」という意見がある一方で、「高校で物理を履修していない学生」も混在しており、1年前期の物理系科目では、授業と連動した「補習」が必要不可欠である。

昨年までの補習参加者数は 延べ人数 180 名程度であったが、今年度は 延べ人数 272 名に増加しており、学生が「自由参加型で、授業と連動した補習授業」を必要としており、1年前期の初年度教育の成否が、留年率に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19～21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 3 (25%) ②いいえ： 9 (75%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 0 (0%)
- ②読んで理解する： 0 (0%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 2 (17%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- ⑤討論する： 1 (8%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)

⑦その他： 0 (0%)

未回答： 9 (75%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス

[1] グループワーク形式で問題に取り組み、それを他のグループに説明させている。よって、問題自体を自分一人では解けない学生も、グループの仲間が作成した解法を理解し、それを他のグループに説明するという作業をすることで、物理の理解だけでなくコミュニケーション能力の向上も図っている。・・・2 クラス

D (問 22～25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 0 (0%)

②いいえ： 12 (100%)

未回答： 0 (0%)

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおおよその回数を選んでください。

①1～5回： 0 (0%)

②6～10回： 0 (0%)

③11～15回： 0 (0%)

未回答： 12(100%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 0 (0%)

②政治・経済・産業： 0 (0%)

③自然環境・フィールド体験： 0 (0%)

④その他： 0 (0%)

未回答： 12 (100%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス